

がん薬薬連携に関する 研修会

実施後報告

ご参加頂きありがとうございました。

11月25日に『令和4年度第1回がん薬薬連携に関する研修会』を開催いたしました。感染対策の観点からオンラインにて開催し、23名の方にご参加いただきました。

今回は乳癌に関連した「リンパ浮腫」と「ホルモン療法」について、当院のリンパ浮腫技能指導者と薬剤師が講演を行いました。

改めて学ぶ機会の少ないリンパ浮腫ですが、患者指導の中で目にするケースは少なくないと思います。講演では日常生活指導など薬剤師でも取り入れやすいケアの紹介があり、「なぜ・どのように」が分かりやすい講演だったと思います。

従来より、乳癌術後のホルモン療法は長期服用が基本となっており、アドヒアランスの維持が重要とされています。さらに今年度の乳癌診療ガイドライン改訂に伴い、新規薬剤との併用が新設されたことにより、副作用モニタリングの面でも、薬剤師の継続的な支援がより必要となります。ますます病薬連携が重要になると考えますので、今回の研修会がそのきっかけとなれば幸いです。

今後がん患者への質の高い治療提供に向けて研修会を開催していきますので、引き続きご指導のほどよろしくお願いいたします。

リンパ浮腫の定義

リンパの輸送障害に組織間質細胞性蛋白処理能力不全が加わり、高蛋白質性の組織間液が貯留し、起る臓器や組織の腫脹

リンパ浮腫の特徴は「高蛋白質性」

日常生活指導

- ▶虫刺され、傷、日焼けや火傷に注意。長袖長ズボン、家事をする時は手袋をかき傷にも注意する。
- ▶汗によるかぶれ。こまめに汗を拭きとる。
- ▶冬の保湿はいつもよりしっかりと。
- ▶ホットカーペットやカイロなどによる低温やけどに注意。
- ▶ムダ毛の処理を行うときは安全カミソリを使用し、保湿と保湿に努める。
- ▶採血や点滴時の駆血、血圧測定のマンスリに注意。
- ▶思い荷物は小分けにして運ぶ。

適切な治療を続けるために

- ・5年以上の長期投与となるため、アドヒアランスの維持が重要となる
- ・アドヒアランスの状況により、治療効果や予後に影響が出る可能性がある
- ・ホルモン療法の副作用は化学療法と比べて重篤なものは少ないが、患者さんのQOL維持のため適切な説明とケアが必要である
- ・よりよい治療のため、保険薬局の協力が必要不可欠である

抗ホルモン剤を5年間以上内服



画像出典：中野病院「乳がんのホルモン療法について」
https://www.nakagami.or.jp/column/k_goka_myosen/column-677/

→ トレーシングレポート等での情報提供をよろしく願います